

オバマ政権が打ち出した金融規制案が世界の市場に衝撃をもたらしている。米国の規制強化の動きが今後の主要国の規制の動きにどのような影響を及ぼすのか注目される。ただ、今回のオバマ大統領の動きは、金融分野を超えてより広範な分野で今後どのような政策スタンスをとっていくのか考える上で重要なヒントを与えている。

ブッシュ政権の政策を否定して出てきたオバマ政権は、経済分野においていくつかの重要な課題を抱えている。世界的金融危機を起こした金融システムにどのような規制をかけていくの



伊藤元重の

## ニュースな見方

かということがその一つだ。それ以外に、京都議定書を拒否してきたブッシュ政権の政策を転換させ地球環境問題での国際協調により積極的に取り組む姿勢を見せるのか、さらには貧困層を中心に多くの医療保険未加入者を抱える医療をどう改善するの

かといった課題もある。ウォール街と距離を置くのなか出にくい成果に批判的だ。それ以外に、京都議定書を拒否してきたブッシュ政権の政策を転換させ地球環境問題での国際協調により積極的に取り組む姿勢を見せるのか、さらには貧困層を中心に多くの医療保険未加入者を抱える医療をどう改善するの

かということがその一つだ。それ以外に、京都議定書を拒否してきたブッシュ政権の政策を転換させ地球環境問題での国際協調により積極的に取り組む姿勢を見せるのか、さらには貧困層を中心に多くの医療保険未加入者を抱える医療をどう改善するの

かということがその一つだ。それ以外に、京都議定書を拒否してきたブッシュ政権の政策を転換させ地球環境問題での国際協調により積極的に取り組む姿勢を見せるのか、さらには貧困層を中心に多くの医療保険未加入者を抱える医療をどう改善するの

かということがその一つだ。それ以外に、京都議定書を拒否してきたブッシュ政権の政策を転換させ地球環境問題での国際協調により積極的に取り組む姿勢を見せるのか、さらには貧困層を中心に多くの医療保険未加入者を抱える医療をどう改善するの

# クリントンからルーズベルトか

密接に絡む。

これらの政策課題で注目すべき点は、「プロビシネス」の立場とどれだけ距離を置くのかということだ。

政権発足から1年、オバマ大統領への支持率は大きく落ち込んできた。就任当初の熱狂から冷めて、なか

中で、オバマ政権はこれまで以上に政策への姿勢を明確にし、反対勢力への対決型とルーズベルト型とのどちらがよいのか、ということ

場からの批判を打ち出すのか、それとも問題でも同じような強い姿勢を打ち出すのかどうかは不透明だ。政治的姿勢を強

に、プロビシネスの立場でも同じような強い姿勢を打ち出すのかどうかは不透明だ。政治的姿勢を強

## オバマ政権の金融規制案

ファイナンシャル・タイムズ紙の記事に面白い論評があった。オバマ大統領はク

背景の違ひもある。オバマ大統領が金融規制

（東大大学院 経済学研究科教授）

\*この記事・写真等は日経新聞社の許諾を得て転載しています。